怒りを込めて奮い立て

日本は戦前も今も役人第一の国だから、民間人の社会保障はいつも後回しだ。

年金はとくにひどい。社会保険庁は昔から運用と称して我々に断りなく年金を他に転用し、天下り先のグリーンピアを作ったり料亭に行くための公用車を１３００台も買い込んだり、官官接待費や使途不明金を巨額に国民にしわよせしているが、国民は何も言わない。訴訟一つ起こさない。こんな国なのである。

「年金ペイオフ」つまり「年金支払停止法」という緊急措置法をでっちあげて、闇から闇へ公金を横領することも十分考えられる。年金にこそ公的資金の投入をすべきだが、かつて何兆円もノンバンクなどにくれてやったわれわれの税金をわれわれが使う年金に回す気配は、まったくない。

社会保険庁は、年金引き下げの原因を二言目には少子化現象にする

Awake with Anger!

が、それは積立方式を賦課方式に転換させ、愚かな制度に拘泥し続け、その間にさんざ年金をくすね盗り、大赤字を平気で作った役人たちのせいである。

ヨーロッパの国々で少子化傾向のある国は多いが、少子化を理由に年金をダウンさせる国はない。やるのは日本だけだ。しかも今の方式だと、その減額の幅は、甘い経済アナリストの試算で3割から5割のダウン、後述する要素を入れた私の試算では後述するように9割のダウンとなる。毎月何万も、営々30年も払い続けて、月々の取り分が25万ぐらいは行くだろうという君の取り分が、たったの2万5千円になるわけだ。

まさかと思う人は役人のやり口を知れ！　君は猫にかつおぶしを預けて、返してもらえると思うお人好しだ。

政界官界が腐ると国民は疲弊し、飢える。どん底生活に転落する。明治から敗戦の昭和20年まで、日本はそんな国だった。今また日本は政官界がめちゃくちゃで、昭和初期のように、ドカ貧への下り坂をまっしぐらに転がり始めた。

今の日本は大正昭和の金融恐慌の時と同じだ。公的資金の投入で金融機関だけが救済され、庶民の生活はほったらかし。預金者救済とは口先だけで、今回も何兆円と国費を遣い、得をするのは一部金融界だけ。庶民の年金がどれだけ赤字でも、公的資金の投入を何兆円とやる提案など出しそうにない。日本とはそんな国だ。

公的資金の投入とは、赤字補填をもって決算書を出しさえすれば借金は棒引きにする方式。闇から闇へ巨額公金を操作。帳尻だけ合わせて、その過程で好きなだけ裏金を掠め取る。大掛かりな公金横領、詐欺行為ではないか。

私の友人に、自分の会社が10億円焦げ付いた。そこでノンバンクに頼んだら、この公的資金で見事帳消しにしてくれたと喜んでいた男がいた。その話、書くぞと言ったら、どうぞどうぞ、俺の名前だけ出さないと約束すれば、なんぼうでも書いてくれ、としゃあしゃあ。この便法で公金が何兆円と闇に消えたね、役人はみな裏金でほくほく。書いてやれ、書いてやれ。友人は投げやりに言った。

98年2月、自民党は「金融機能安定化のための緊急措置法」を成立させたが、その当時、こんなスキームを打ち出していた。

銀行およびノンバンクに総額30兆円の公的資金を投入する。

うち13兆を金融機関の自己資本に注入、残りの17兆円は破綻金融機関の預金者保護に充当するというものだった。このスキームのうち、大部分が金融機関保護のためだと解る。なぜなら、銀行は貸し付けと引き替えに担保物件を抱えており、自己資本が十分充当されれば、それもばねにして、預金者保護をしようと思えば出来るからなのだ。ようするにこの措置は在野の預金者をダシにしてでっち上げた、一種のマネーロンダリングであ

り、天下り役人が金融機関に手土産がわりのカネをくれてやる便法にすぎないのだ。

阪神大震災の時だった。政府は金融機関に６５００億、タダでくれてやった。ところが５０００人もの死者を出した兵庫県には、その復興費として、ほぼ同額の資金を貸し出すという。二重ローンであろうと、どうであろうと、借りたものは皆返せ、である。わたしはこのとき、読売新聞に一兆円基金の提案を掲げ、全紙をつかって大シンポジウムを展開していた真っ最中だったから、時の自治大臣だった野中広務氏と大臣室で折衝。なんとか返さんでもいいようにしてやれと言い続けた。だがほとんどが貸し付けだった。私はこのときほど、国の、一般国民に対する冷たい姿勢を思い知らされたことはない。

年金扱いも、国は同じ根性でやるはずだ。民主主義の時代になっても、日本の指導者はつねに戦前と変わりなく、民は下々の者で、取るに足らない存在と考えている。

『文藝春秋』２００４年5月号が「年金食いつぶし官僚弾劾裁判」と題する特集を掲載した。この時期、岩瀬達哉著『年金大崩壊』(講談社)、同『年金の悲劇』、日本経済新聞社編『年金を問う』、西沢和彦著『年金大改革』と、年金警告書が続出した。が、カエルの面にしょんべんとはこのことで、社会保険庁はなんら態度を改めない。官官接待は相変わらず続けるし、天下りで退職金の二重取りもやり、さらには年金一本化まで打ち出して、あらゆる年金を全部食いちぎろうとする。

累計1兆２０００億円もの年金が官僚たちの車代や遊興費、退職金に充てられて、窃盗されていることが明るみにでた。それを受けても、検察庁は動かなかった。会計検査院も動かない。こいつらは上部でグルなのだろう。会計検査院は１０００円のタクシー代でも摘発していると胸を張るが、じつは下っ端の落ち度を責めて正義ぶる材料に使い、高級官僚による巨額浪費行為には、いっさい手をつけない。会計検査院とはそういう御用組合にすぎない。私はテレビでさんざそれを指摘したが、放映前の検閲で全部カットされた。彼ら自身が天下りをやって、退職金の二重取り、三重取りをやっている。これが日本の公的機関である。

私はテレビ朝日の「ＴＶタックル」で、フリップを使ってまでして上級公務員の犯罪隠蔽に荷担する会計検査院の愚劣ぶりを指摘したが、それもカットだった。お上怖いのマスコミのやることは「ハッシュ・ハッシュ・ポリシー」である。今の日本の指導者集団には北朝鮮を非難する資格はない。いや、日本は今や北朝鮮そっくりだ。高級官僚たちが将軍さまに連なる「喜び組」であり、庶民は晩年の保障一つない、自給自足の生活で細々とふるえて暮らすのである。

なぜ当局は、年金に巨額公的資金の投入政策をしないか。

それは金融界との癒着のように、やすやすと甘い汁が吸えないからだろう。

老人がのたれ死ぬ。姥捨て山にっぽん。

脱北するがごとく、「脱日」して、物価の安い国に逃げる人々の数が近年うなぎ登りだが、それには相当額の見せ金か高額年金の証明書が要る。カネなしで亡命のごとくやってくる日本人にビザは出さない。

よろしいかな、諸君、とくに働き盛りの３０代、４０代の諸君！　このままでは年金受給は絶望だ。君らが元気なうちに、たとえ１０００万でも２０００万でも多く溜めて、老後の自衛手段に出るしか、ほかに手がないぞと、私は断言したい。